



事務室（現：本館）



川口氏

オエノグループ シャトーカミヤ

物販製造部長兼営業推進部長

川口 孝太郎 氏

■会社概要

本社：茨城県牛久市中央3-20-1

設立：1903年(明治36年)

従業員：20名

事業内容：フードサービス業

(レストラン・ショップ・記念館事業)

今月号の「企業探訪」は、オエノグループ シャトーカミヤ（以下、同社）の物販製造部長兼営業推進部長 川口 孝太郎氏にお話を伺いました。

同社は、1903年に日本初の本格的ワイン醸造場として創業し、今年で111年を迎えます。当時の歴史を今に伝える建物は、国の重要文化財・近代化産業遺産に登録されています。

川口氏は、2005年に同社に着任以来、精力的に地域活動に参画しながら「歩く宣伝マン」として同社をアピールしています。その活動の裏には、地域と共に歩んで行こうとする同氏の「人間力」を垣間見ることができました。

本インタビューでは、同社の事業内容や事業理念、主力商品、川口氏の夢や地域貢献活動等についてお話を伺いました。

(インタビュー：2014年12月4日)

[聞き手／筑波総研株式会社 常務取締役 藤咲耕一]

貴社は、1903年に日本初の本格的ワイン醸造場として誕生して以来、多くの方々に愛される商品を世に生み出して来られました。また、当時の建物が、国の重要文化財に指定されるなど、大変注目されています。

事業概要や事業理念等についてお聞かせください。

①事業概要等

オエノグループに所属するシャトーカミヤは、グループ内で唯一、フードサービス事業を展開しています。私は、2005年に着任し現在に至っています。

当社の歴史は、1903年（明治36年）浅草・神谷バーで知られる実業家「神谷傳兵衛」が、当地・茨城県牛久市に「日本初の本格的ワイン醸造場」を開設したことに始まります。当社は、フランスの醸造場をモデルに、ボルドー地方の技術を用いて、「葡萄の栽培(写真1)から、ワインの発酵・醸造・瓶詰めを一貫して行う醸造場＝シャトー」として操業してきました。このような一貫した製造を行ったのは、当社が日本で最初です。



写真1 ブドウ畑

当社は、約6万㎡ある園内（写真2）に、当時の建物を活かした記念館やレストランを展開しています。ここでは、ワインの歴史を紹介するとともに、美味しいお酒と自慢の料理をご提供しています。当社は、「多くのお客様に来て頂きたい」との思いで、1996年より本格的に環境整備と施設の保全を推進してきました。現在では、多くの方々にご利用いただいています。

当社は、2003年に創業100周年を迎えました。



写真2 シャトーカミヤ 園内マップ

私たちはこの価値を次の一世紀（200周年）に繋げるため、「お客様の喜びは私たちの喜び」という考えに基づき、「シャトー」の名にふさわしい企業づくりを行っていきます。

②国指定の重要文化財に指定

2008年に変革が起きました。同年4月の文化審議会答申を経て、文部科学大臣から6月9日にシャトーカミヤ旧醸造場施設3棟が「最初期の本格的ワイン醸造施設」として、国の重要文化財に指定されたのです。このことは、グループ全体としても大変名誉なことであり、私個人としても非常に誇らしいです。

文化財として指定されたのは、「事務室」（現：本館（写真3））、「醱酵室」（現：神谷傳兵衛記念館（写真4））、「貯蔵庫」（現：レストランキャンオン（写真5、6））の旧醸造場施設3棟です。明治中期の煉瓦造建築として歴史的価値の高さと、当時の醸造方式を理解するうえで産業技術史における価値が高いという2点が評価されました。

3棟は、東日本大震災で大きな被害を受け、現在も事務室の修復工事が継続しています。2016年3月末には完成予定です。



写真3 事務室（建設当時）



写真4 醱酵室



写真5 貯蔵庫



写真6 レストランキャンオン（上）エントランス（下）内観

【重要文化財指定理由】

本施設は、明治中期の本格的な煉瓦造ワイン醸造場の主要部がほぼ完存しており、高い歴史的価値がある。とりわけ醱酵室は、各階ごとに配された設備構成等から当時のワイン醸造工程を窺うことが可能であり、産業技術史上も重要である。また事務室は、シャトーを名乗るに相応しい意匠を有し、明治中期の煉瓦造建築の意匠水準を計るうえでも価値が高い。（文化庁HP 国指定文化財等データベースより）

③地域と融合しながら「企業文化、ブランド価値」を発信

当社の使命は、「現在まで培ってきた企業文化やワイン産業史、そして“シャトーカミヤブランド”という価値を発信、後世に伝達していくこと」です。

国の重要文化財である明治時代の歴史的な建物や醸造技術の伝承、そして、当社の存在感をより広く示していくことにより、企業価値の向上に努めています。

その一環として、当社では、通年でイベントを開催しています。4月は、満開の桜の下でワインや地ビールを楽しむ「桜まつり」



写真7 桜まつり

（写真7）、5月の連休は、安全に園内でお子様も一緒に楽しめる「地ビールまつり」、6月末～9月中旬は、星が光り輝く夜空の下で、地ビールとバーベキューを楽しむ「ビアガーデン（納涼祭）」（写真8）、10月最終の土日は、晴れ渡る秋空の下で収穫を祝う「ワインまつり」を開催しています。東日本大震災までは、冬の期間は、牛久駅から当社まで大々的にイルミネーションも行っていました。

明治時代のレンガ造りの建物や自慢のワインや地ビール、楽しい会話、そして表情豊かな自然に囲まれながら、お客様との交流イベント等を通して、これからも「地域への貢献、地域との融合、地域との交流」に努めてまいります。



写真8 ビアガーデン(納涼祭)

④社員のワークライフバランスを尊重

当社の社員が、それぞれの能力を発揮しながら、ワークライフバランス（仕事と生活の調和）を図れるよう、シフトの組み方を工夫する等の就業環境づくりにも取り組んでいます。社員の家庭生活を守りつつ、限られた時間で美味しいお酒や料理の腕を各人が磨いています。

貴社のワインやビール等の主力商品は、世界的な品評会において、金賞を受賞する等、多くの方々の舌をうならせてきました。商品の魅力や今後の展開等についてお聞かせください。

①日本初の本格国産ワイン

当社の日本初の国産ワインへの挑戦は、創始者である神谷が、メルローの苗木を6,000本移植したことに始まります。この苗木は、フランスのボルドーを発祥地とする代表的な赤ワイン用ブドウ品種です。

後に、当社で醸造された「牛久葡萄酒」(写真9)は、1904年(明治37年)、イギリス水晶宮で開催された博覧会で名誉金牌を受けました。現在でも、当社の看板商品として多くの方に愛されています。



写真9 牛久葡萄酒

②茨城県初の地ビール

現在、日本国内で飲まれているアルコール飲料の量は、ビール、日本酒、ワインという順番です。今後は、ワインがさらに多くの人に愛されるよう裾野を広げるとともに、地ビールづくりにも力を入れています。

当社のビールは、1996年に地ビール「牛久シャトービール」(クラフトビール)(写真10)として、茨城県第一号の認定を受けました。当社では、ヘレス、デュンケル、ピルスナーを中心に、1年を通じて様々な地ビールを製造しています。

ビールは、“のどごし”が重要です。「あとに残らない、すっきり爽快感!」を大切にしながら、生きている酵母の美味しさも損なわないよう技術を高めています。

作りたてのワインや地ビールは、園内のレストランやイベント等でお楽しみいただけます。



写真10 地ビール

【牛久ブルワリービール】

Helles (ヘレス：国際ビール大賞 2012年銀賞受賞・苦みを抑え、心地よく飲みやすく仕上げた喉ごしさやかな黄金色に輝くビール)

Pilsner (ピルスナー：国際ビール大賞 2012年銅賞受賞・ドイツ産のアロマホップをふんだんに使用した、爽快な苦みが特徴)

Dunkel (デュンケル：国際ビール大賞 2012年・2013年に連続して金賞受賞・カラメル麦芽やロースト麦芽を使用した、カラメルソースやコーヒーのような香ばしい風味の濃厚な色調が特徴)

貴社は、「いばらきイメージアップ大賞」奨励賞(2008年)を受賞されるなど、文化芸術支援活動を通じた地域との関わりを推進されています。地域との関わりや具体的な取組み等についてお聞かせください。

①地域の文化芸術活動への支援

当社では、「企業文化、ブランド価値を伝達・発信する場所」としてふさわしい存在になるため、地域とのかかわりを大切にしてきました。当社の

所在地である牛久市は、「文化芸術の振興を推進し、心豊かな市民生活を形成すること」を目指しており、2003年には、牛久市文化芸術振興条例が制定されました。

当社は同市の考えに賛同し、2006年から継続して、企業市民活動の一環として、同市の文化芸術活動を支援しています。



写真11 コンサートの様子

今年の9月には、同市と共催でピアニストの中村絃子氏のデビュー55周年記念コンサート（写真11）を文化ホールで開催しました。その他、積極的に園内を活用し、音楽イベントを実施しています。

②子供たちへの伝承活動

当社では、2005年から毎年、牛久市教育委員会と連携し、学童保育に通う小学校2~3年生を対象として、当社の歴史等について伝える活動「町たんけん」を支援しています。毎年300~500人が参加しており、最近では、隣接市町村からの参加も目立つようになりました。

活動のきっかけは、小学校6年生の社会科の教科書に、「明治時代の株式会社」の1つとしてシャトーカミヤが掲載されていたことです。この活動を通して、地域の子供たちが自分の町に興味を持つきっかけの1つになってほしいと願っています。

③地域活動を通して、企業価値を向上

私は、当社が企業の使命を果たすためには、「地域のために、お金も人も出す企業」であるべきだと考えています。そのため私は、地域で開催される芸術イベント（「第23回国民文化祭・いばらき2008」、「ビエンナーレうしく」等）の実行委員や牛久市の国際交流会に参画してきました。また現在も、国際交流会や同市の観光協会の理事等を務めています。

多くの方々と共に汗を流し、地域活性化の活動を続けることで、自然に地域とのパイプも強く、太くなっていきます。そしてそれが次の活動への活力となり、さらには、当社の企業価値の向上に

も繋がると確信しています。

最後に、川口部長様の夢や座右の銘等についてお聞かせください。

酒類製造メーカーとして、お酒の楽しさ素晴らしさをアピールすると同時に、皆様の健やかな食生活をサポートする企業であり続けたいと考えています。そのために、これからは私は、当社が「地域に根付き、地域に愛される企業」となる活動を行っていきます。

また、私の個人的な夢は、当社の国指定の重要文化財であり近代化産業遺産でもある明治時代の建物、そして、修復工事を行った際に発見した明治時代の遺跡を活かし、「当社が日本のワイン産業史の1ページを開いた」ということを広く発信していくことです。

私は、「人間力」という言葉が好きです。人には、それぞれに備わっている素晴らしい力があり、私は、その力を信じています。今まで培ってきた地域とのご縁を大切にしながら、「人間力」を高め、「人望」の厚い人になれるよう日々努力してまいります。



この度は、長時間にわたりまして貴重なお話を聞かせていただき、誠にありがとうございました。貴社の今後ますますのご発展をご祈念いたします。



川口部長(写真右)と聞き手・藤咲耕一

■ 文 責／筑波総研株式会社 研究員 富山かなえ